



INDEX

- 2 地震・火山
- 3 地球温暖化
- 4 生物多様性・森林破壊
- 5 大気汚染・水・土壌汚染
- 6 水処理・土壌浄化
- 7 廃棄物処理
- 8 省エネルギー／政策
- 9 省エネルギー／空調
- 10 省エネルギー／空調・建機
- 11 スマートコミュニティー／総論
- 12 13 スマートコミュニティー／再生可能エネルギー
- 14 15 スマートコミュニティー／エネルギーの効率利用
- 16 3R
- 17 都市資源開発／レアメタル・小型家電リサイクル
- 18 中小企業の環境技術
- 19 地球環境クイズ解答と解説
- 20 CSR・CSV

地球環境クイズに挑戦しよう！
各面に地球環境に関するクイズを掲載しました。楽しみながら知識を高めてみませんか？
(全50問、答えは19面に掲載)

環境先進国ニッポン ―挑戦と貢献―



植樹で森の防潮堤づくりに協力しながら被災地に新たな産業も育てていく活動をしている細川氏

プロジェクトが始まってから1年が経過しました。昨年、体制づくりをした1年、主にどんぐり拾いや、技術協力という形で植樹に参加した。2年目に入り、5月に仙台市若林区荒浜で植樹活動を主催した。6月には宮城県岩沼市と共催で同市「千年希望の丘」整備事業の一環として行った。歌手の倉木麻衣さんも参加し、ボランティア約4,500人で17種3万本を植えた。今秋には福島県南相馬市で行う予定だ。「震災では松島の島々が津波の威力を軽減したと言われることから、千年希望の丘ではそれを地上で再現するように、沿岸部にマウンドを複数つくっている。今後10年で

人間の生産活動が急速なスピードで拡大したことによって、私たちの住む地球はさまざまな危機に直面している。温暖化やオゾン層の破壊、酸性雨、森林破壊、海水や大気の汚染など、国や地域を越えた大きな課題だ。人間だけでなく地球上の全ての動植物にとってかけがえのない地球。取り返しのつかなくなる前に、壊してしまった私たちは人間が活動を見直し、また、最先端の技術を使えることで保全、復元していかなければならない。日本は東日本大震災でエネルギーセキュリティや除染、がれき処理など多くの問題に直面した。これまでも過去に経験したことのない災害に対し、さまざまな技術開発がなされ、復興してきた。自然災害が多い日本は過去の教訓からさまざまな研究・開発を進め、世界に誇れる技術を持っている。

鎮守の森をつくる
瓦礫を活かす森の長城プロジェクト理事長
ほそかわ もりひろ
細川 護熙氏
古来、日本人は自然を畏れ、敬い、その恵みに感謝の念を抱きながら自

自然の防潮堤／ポット苗生産／働く場も提供

10月、3年で20万本の植樹が目標だ。今後、より広範囲にわたる活動をどのように進めていきますか。「さまざまな活動と連携して植樹を進めたい。5月の荒浜は林野庁の『みどりのきずな再生プロジェクト』の一環として行った。マウンドの沿岸部には海岸保全林として同行が推奨しているマツ林を、そしてそれをパツアップするようにつくっていく。津波に強い保全林にしていきたい。6月には国土交通省東北地方整備局などが主催する植樹にも協力した。国交省でも生態系や景観に配慮し、防潮堤の後背地へ海岸林を設置することが検討されている。震災時、仙台東部道路が防潮堤の役割を果たしたことから、道路の両面にも植樹しようという動きもある。「植樹を広く範囲に広げていくために、どんぐり集めとポット苗の生産に力を入れていく。ポット苗の栽培は被災地での働く場の提供にもつながる。現在、地元では照葉樹の苗木を専門とする業者に栽培を委託している。今後、植樹活動により活発になれば、大量の苗が必要になる。ポット苗の栽培を地元の産業にするために、研修体制を確立させ、リーダーの養成やマニュアルの作成を行っていく。今年開催されたチャ

リティーオークションの反響はいかがでしたか。「2月に東京、4月に大阪で行い、合わせて約4,000万円の寄付が集まった。女優の吉永小百合さんや東京大学名誉教授の養老孟司さん、そうとうたる方々にお引き受けいただいた。品物ではなく、権利の出産を多くし、他にはないオークションにした。特にレスリングの吉田沙保里選手に『抱き上げてもらって』権利などは会場が盛り上がり、震災を風化させないという話題になる工夫をして、今後7年に2回程度行っていきたい。継続的にプロジェクトを進めるにあたり支援の重要性は、当財団は今年3月に森の長城創造事業に対する指定寄付金制度の認定を受けた。企業や団体からの寄付が法人税において非課税になり、全額損金算入ができるため、法人に有利な形になった。支援が植樹何本分と具体的に目に見える形になるのが好評だ。個人で取り組む年間1万円の寄付を5年間継続する『森の長城応援団』も約600人の申し込みがあった。この活動は継続していくことが一番大事なことだと考えている。引き続き、皆さまからのご支援を賜りたい」

指定寄付金専用口座
▶銀行名・三井住友銀行
▶支店名・本店営業部
▶種別・普通口座
▶口座番号・2615689
▶口座名義・公益財団法人瓦礫を活かす森の長城プロジェクト

瓦礫を活かす森の長城プロジェクトは東日本大震災で被害を受けた青森県から福島県にかけての太平洋沿岸で、がれきを混ぜたマウンドを築いて植樹し、森の防潮堤を築いていくというものである。その土地本来の植生であるシイタケ、カシなどの照葉樹を混植すると、がれきを抱きながら地中深くまで根を張り、15年ほどで立派な「鎮守の森」に成長するという。森の

プロジェクト概要
防潮堤は通常は防風林や防砂林として機能し、津波が来た時にはそのエネルギーを弱める役割を果たす。万が一、津波が防潮堤を超えた時も引き潮で人やモノなどが沖に流されるのを樹木が防ぐ。同プロジェクトでは植樹するポット苗の栽培や植樹指導ができる人材の育成も視野に入れており、地域の産業活性化や雇用創出などの効果も見込まれる。



さあ、ともにカーボンフリー企業へ

CO₂ 排出量プラスマイナスゼロへと導く、グリーンボールプロジェクト。

省エネ機器販売量(CO₂削減効果)に応じた排出枠を参加企業に付与するという独自の仕組みにより、省エネ機器の普及を促進するとともに、参加企業のカーボンオフセットを推進、CO₂排出量プラスマイナスゼロ[カーボンフリー企業]へと導きます。

グリーンボールプロジェクト活動実績

京都議定書第一約束期間('08~'12年度)

◎カーボンオフセット実施社数

左記のうち ◎カーボンフリー達成社数

531社

177社

◎CO₂削減効果量 **137,516**トン削減

※省エネ機器の販売・設置により得られた削減効果量の累計

カーボンフリー企業 認証マーク

カーボンフリー企業認証マークは、グリーンボールプロジェクトを通じてカーボンフリーとなった環境優良企業の証です。
GREEN BALL PROJECT COMMITTEEが客観的な立場からCO₂排出量に関する情報を確認して認証します。

※GREEN BALL PROJECT COMMITTEEとは、当プロジェクト内のカーボンオフセットやカーボンフリー企業の認証を客観的に行なう委員会です。環境監査等に精通した複数の有識者から構成されており、排出量の精算やクレジットの償却が適正に行なわれていることを監視します。

グリーンボールプロジェクト(GBP)について

- 1 GBP参加企業が省エネ機器(GBP対象商品)を販売
- 2 省エネ機器販売量をもとに算出したCO₂削減効果と同量の排出枠(国連認証済みCER)を獲得
- 3 2で得られた排出枠を自社の排出量とカーボンオフセット

カーボンオフセット、カーボンフリー企業について

自らが排出する温室効果ガス(CO₂)の量を認識し、これを削減する努力を行うとともに、削減困難な排出量に関して、他で実現した温室効果ガスの排出削減枠(クレジット)を購入するなどして、埋め合わせることがカーボンオフセットです。また排出量の全部を埋め合わせた企業がカーボンフリー企業です。



J-クレジット制度 活用企業様

大型のCO₂削減設備の導入を計画中で、J-クレジット制度を活用し削減効果のクレジット化を希望される企業様。計画立案から効果試算、制度申請からクレジットの売却までトータルでサポートいたします。詳しくは、Webサイトで

株式会社 山善  大阪本社 〒550-8660 大阪市西区立売堀2丁目3番16号
東京本社 〒108-8217 東京都港区港南2丁目16番2号
Green Ball Project 運営事務局 www.greenball.jp